

活動報告

(抜粋してのご報告になります。)

◆令和2年12月5日(土)、

例年は愛媛県の国立大洲青少年交流の家で開催されている
地域教育実践交流集会在、今年はオンライン(ZOOM)で開催されました。
200人余りの参加者でしたが、私もコロナ禍における地域教育の実践事例を
シンポジウムで発表させていただきました。例年、全国各地から多くの方が集う交流集会ですが、
今年はオンラインということで、より参加し易い状況になりました。しかし、人との関わりは対面に勝るものはないように感じましたし、
さまざまな体験もバーチャルよりもリアルがベターだと考えますが、
Withコロナにおいては、オンラインと対面での学びを
どのようにバランスよく合わせるかが課題であるように思いました。

●政治資金規正法第12条の規定により、

政治団体である『柿本和彦後援会』は、

広島県選挙管理委員会に平成31年分の収支報告書を提出しました。
概要は次の通りです。

【収入】		【支出】		(単位：円)
前年度繰越金	1,050,201	人件費	530,000	
寄付金	500,000	光熱水費	40,650	
その他の収入	1	事務所費	206,391	
		組織活動費	126,691	
		機関紙の発行		
		その他の事業費	55,132	
		翌年度への繰越	591,338	
《合計》	1,550,202	《合計》	1,550,202	

【柿本和彦後援会】

〒722-0062 尾道市向東町3301-1

Tel・Fax兼用(0848)41-9315 Fax(0848)44-6829

メールアドレス: info@k-kakimoto.com

ホームページURL: http://k-kakimoto.com/

ブログURL: https://blog.k-kakimoto.com/

ご意見等がございましたら、お気軽にお寄せください!



愛と志で誇りある未来を創造しよう!

かきもとかずひこ

柿本和彦後援会 会報 VOL.19

編集：柿本和彦後援会 令和3年1月1日発行

新年明けまして
おめでとうございます令和2年は新型コロナウイルスに明け暮れた年になりましたが、
本年もまだまだ油断は出来ません。新しい生活様式を徹底し、
正しく恐れて、冷静に対応して参りましょう!そして、自らの命を守るため、
周りの人の命を守るため、

出来ることを一つずつ行動して参りましょう!

魅力あるまちづくり、誇りあるまちづくりに、
皆さまと共に精一杯考動して参りますので、
本年も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

Withコロナを生きる!?

“21世紀はウイルスの時代”とされていますので、

COVID-19(以下、新型コロナ)に留まらず、

これからも未知のウイルスが出現すると思います。

ワクチンや治療薬の開発によって、

平穏無事な社会を追求しなければなりません、

ウイルスといかに共生し、より安全・安心な生活を送るか
といったことを考えることも重要です。

新型コロナ感染拡大防止策は人との距離を取らせる中で、

心の距離も遠ざけてしまった感があります。

また、リアルな世界よりもバーチャルな世界を優先するような

風潮も生まれたように感じます。

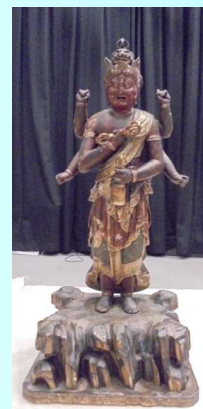
『私たち人間はリアルな実社会に生きている』ということをお忘れず、
皆さんと共に知恵を絞って参りたいと思います。

かきもと和彦の活動報告 《2020（令和2）年1月～12月》

研修 & 視察報告

（抜粋してのご報告になります。）

◆ 会派（平成会）で、7月29日（水）に、和歌山県立博物館を視察しました。学芸員の大河内智之さんにご案内をいただき、「お身代わり仏像」を使いながらレクチャーを受け、その後、収蔵庫内を見学させていただきました。「お身代わり仏像」は触れる教材を作っていた発想を生かして、**仏像のレプリカを制作**することを提案し、県立和歌山工業高校の生徒が造形をし、和歌山大学の学生が着色をするという流れを作ったということでした。盗難が相次いだ仏像の保管・管理という課題解決を目指したものでしたが、生徒と地域との交流を進めていくことで、**若者の流出の解決**にもつなげられるように感じました。また、スキャンした**3次元データを商業ベースに載せることが出来れば、新たな観光資源の発掘**にもつながるように思いました。



◆ 翌日30日（木）は、広川町にある「**稲むらの火の館**」を視察しました。濱口梧陵記念館と津波防災教育センターが併設された博物館で、「**世界津波の日**」制定の由来にもなった“**稲むらの火**”（＝1854年の**安政南海地震津波**に際しての出来事をもとにした物語）は、防災教材としても高く評価されているということです。稲むらの火の**モデル**となった濱口梧陵の生家が広川町に寄贈され、濱口梧陵記念館となっていました。濱口梧陵の**指揮**のもと築造された**広村堤防**は、昭和南海地震の津波の際などにおいて効果を発揮したということですが、高さ5m、長さ600mもの**広村堤防**は、現代に生きる私たちも**圧倒される人工物**でした。東日本大震災で被災している者として、津波防災は他人ごとではなく、改めて“**津波てんでんこ**”を痛感しました。



◆ 会派（平成会）で、1月16日（木）に、しまなみジャパン主催の観光ビジネスセッション・地方創生セミナーに参加しました。当日は、**デービッド・アトキンソン氏**による、『**世界一訪れたい“しまなみ海道”のつくりかた～これからすべきこと～**』を拝聴し、『**観光の魅力は、有る・無いではなく、創るもの**』、『**観光客数は行政の役割、観光収入は民間の役割**』、『**目に見えないモノを観る**』といったことを学びました。コロナ禍により、観光産業は大打撃を受けていますが、**カスタマー・エクスペリエンス（顧客体験）**を向上されるような発想で、**ピンチをチャンス**に出来ればと考えます。



感染拡大地域へは行かない、公共交通機関を利用しない、等をはじめ、**新型コロナ感染防止策を徹底、遵守**する中で視察を実施しました。

定例会における質問

質問要旨（大項目）

定例会において、次の項目について一般質問をしました。

【9月定例会】

1. Withコロナにおける、児童生徒の読書活動の推進並びに電子図書館の導入について
2. Withコロナにおける、小中学校での遠隔授業活用について

【12月定例会】

1. Withコロナにおける、自転車事故防止並びに死傷者軽減対策について
2. Withコロナにおける、情報モラル教育について
3. Withコロナにおける、地域と共にある学校づくりの推進について

質問詳細については、**QRコードを読み込んでご覧ください。**

【9月定例会】



【12月定例会】



【9月定例会】



議場での一般質問の様子が録画映像でご覧いただけます。